

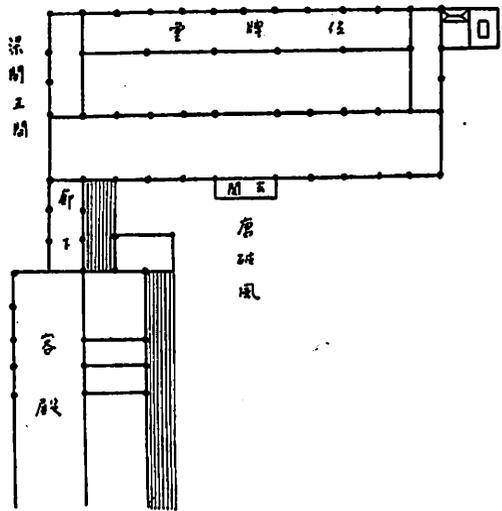
牌所なりし故に、藩祖以來歴世の靈堂ありしかど、廢藩の後神葬祭に改められしを以て、明治七年七月十二日兩利の靈堂に安置せられし歴世の位牌を廢し、靈堂をも毀たしめられたり。その後同十年五月九日・十日の兩日に於いて、石川郡野田山の廟所なる大納言利家卿以下歴世の墳墓に設けられたる石の祠堂を取除け、更に碑石と鳥居とを建てられ、神祭式を執行ありしかば、是より兩利以下諸寺院の佛典は全く廢せられたり。

○下祠堂并大坂城討死諸士

此の祠堂は、慶長・元和攝州大坂兩度の城攻に討死せし藩士共の靈堂にて、今云ふ招魂社にひとし。藩侯の歴代廟堂の下に造營ありし故に、下祠堂と呼べりとすへり。此の下祠堂は、中納言利常卿元和の初め創立せしめられし處にて、其の後百十年許を経て、享保十三年寶圓寺現住照大和尚改めて造營せしかど、其れより三十二年といふ寶曆九年四月十日の火災に罹り、其の後再建せずといへり。下祠堂の圖はこゝに載する如し。

位牌之寫

行屋限而長百六



慶長十九十二月四日

傑州洞英居士

大河原助右衛門

慶長十九十二月四日

武山道勇居士

大河原四郎兵衛

慶長十九十二月四日

光山淨心居士

大橋 外記

慶長十九十二月四日

玉寶宗輪居士

岡田助右衛門

慶長十九十二月四日

明浦宗珠禪定門

稻垣 掃部

元和元五月七日

泰安壽實居士

神 戸 藏 人

元和元五月七日

麟閣玄忠居士

長瀬小右衛門

元和元五月七日

溪松院玄雪信士

堀田平右衛門

元和元五月七日

孝雲盛忠居士

小寺甚右衛門

元和元五月五日

雄圍善忠禪定門

多 田 大 學

元和元五月七日

本清宗心禪定門

諏訪八兵衛

元和元五月七日

英珍庵光哲居士

青木權右衛門

元和元五月七日

天山道閑居士

齋田七左衛門

元和元五月七日

應山自喚居士

山下勘兵衛

元和元五月七日

月窓永順居士

富田市十郎

元和元五月七日

年室道壽居士

三好左助

元和元五月七日

贊黃宗名居士

神子田五兵衛

元和元五月七日

逸岳宗俊禪定門

妻木左京